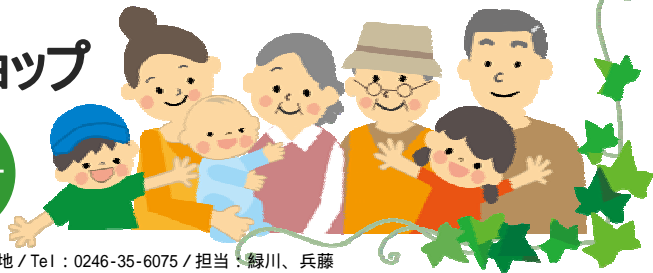


岩間地区防災緑地ワークショップ かわら版 第1号

平成 25 年 6 月 12 日発行 / 福島県いわき建設事務所 / 〒970-8026 いわき市平字梅本 15 番地 / Tel : 0246-35-6075 / 担当 : 緑川、兵藤



防災緑地整備に地域の意見を反映

岩間地区は、東日本大震災の津波により、市街地が広範囲にわたり被害を受けました。

いわき市復興整備計画では、今後、数十年から百数十年の頻度で発生が想定される、頻度の高い津波や高潮に対しては、海岸堤防により人命や財産を守ることとしています。さらに、今回と同様あるいはそれを上回る津波に対して

は、海岸堤防の背後に、津波エネルギーの減衰や漂流物の捕捉効果を発揮する防災緑地を整備し、多重防御による津波からの防災性の向上を図るとしています。

そこで、防災緑地の計画検討に際して、地域の方々の意見やアイデアを取り入れ、親しまれる防災緑地とするために、全4回にわたって「岩間地区防災緑地ワークシ

ョップ」を開催することになりました。



被災直後の岩間地区(「東日本大震災写真保存プロジェクト - Yahoo! Japan」より)

第1回ワークショップを開催

ワークショップの流れ

6月1日に開催された第1回ワークショップには、参加者27名のほか、アドバイザーとして東京藝術大学の北郷悟先生、元倉眞琴先生、清水康博先生、樹木医の木田都城子先生をお迎えしました。

会場では、今後のワークショップの開催概要や防災緑地基本計画の概要などの説明を行い、その後、参加者全員で防災緑地の計画地に移動して防災緑地の実寸大

模型を見学しました。そして再び会場に戻り、参加者全員が意見を述べるグループワークを行いました。

現地見学会

現地見学では、単管パイプを組み立てた防災緑地の実寸大模型を見学するとともに、木田樹木医に防災緑地に適した樹木についてお話しいただきました。

グループワークの開始

グループワークでは、「こんな緑地がいいね」をテーマに、5班に分かれた参加者が自由な意見を出し合いました。さらに、それぞれのテーブルごとに意見を整理して、各班の代表者がその結果を発表しました。



防災緑地計画地に設置された実寸大模型。



防災緑地計画地の周囲に生育する樹種も学びました。



お子さんの姿もあり、会場は和やかな雰囲気でした。



討議の果 テーマ: こんな緑地がいいね

A班	防災緑地を見た感想	<ul style="list-style-type: none"> 想像以上の高さ 土地の有効利用 足場の高さがけっこうある 整備当初の樹木高はどれくらい? 熟海の海岸のイメージ 松くい虫は大丈夫か 防災林は松以外もあり。ハワイ風もいいと思った 緑地の幅はたいしてない感じがした 模型の高さは本当に高かった。木を入れることでさらに高くなる 				
	どこで	誰が	何のために	何をする	そのために何が必要か	何がいらぬか
			<ul style="list-style-type: none"> 後世に残す 来訪者のため 交通整理(混雑) 	<ul style="list-style-type: none"> 記念公園 震災の記憶(記録) バーベキュー モニュメント(堤防) キャンプ 砂浜を歩きたい 散歩をしたい 	<ul style="list-style-type: none"> 水道設備、シャワー設備 照明街燈(ソーラー発電) 駐車場 遊歩道の整備 自動販売機 砂浜へ降りる階段が欲しい 遊び場が欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> トイレは必要ない。管理が大変 緑地は欲しいが雑草がイヤ

B班	防災緑地を見た感想	<ul style="list-style-type: none"> 全く海が見えない 高さが思いのほかあった 				
	どこで	誰が	何のために	何をする	そのために何が必要か	何がいらぬか
		<ul style="list-style-type: none"> 親子と一緒に 観光客 地元住民 岩間地区民 	<ul style="list-style-type: none"> お祭り 	<ul style="list-style-type: none"> 自然と触れ合える散策ロード ネイチャーゲーム サーフィン 観光 散歩 御神輿 	<ul style="list-style-type: none"> ベンチ、散策路、見晴らし台、駐車場 階段等で海にも行ける、四季を通じて足を運ぶ道 花がある木、樹木、花、四季の花 公園と防災緑地を結ぶ道路 サイン、看板 祭で海に神輿が入るためのスロープ ゴミ箱 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ箱

C班	防災緑地を見た感想	<ul style="list-style-type: none"> この高さで景観はどうなるのか。 避難経路の表示。6号BPへの矢印。 				
	どこで	誰が	何のために	何をする	そのために何が必要か	何がいらぬか
		<ul style="list-style-type: none"> サーファー 墓地利用者 地元(特に年配者) 		<ul style="list-style-type: none"> 駐車場がほしい 散歩途中でストレッチする器具、道具 トイレ、水飲み場、洗い場 海へ降りる階段 山側と海側の行き来は? 盛土区間道路の逃げ道 実のなる木(ドングリ、松、栗) 	<ul style="list-style-type: none"> 道路からの入り口はどうする? 公園的な整備 管理は誰が行うのか? 県? 市? 地域? 	

D班	防災緑地を見た感想	<ul style="list-style-type: none"> 盛土はどこから? 県内で運土計画をして確保している 火力発電所が横にある。残土も使える 海が見えなくなる 音も聞こえなくなる 良いと思う人もいる 				
	どこで	誰が	何のために	何をする	そのために何が必要か	何がいらぬか
		<ul style="list-style-type: none"> 地域の住民 県外からの観光客 	<ul style="list-style-type: none"> 東側(県道)頂部から海の景色を見る 神社から神輿が出て海に至るルート 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽イベントに活用できれば サイクリングロード 堤防外の砂浜を活用したい(グラウンドとか) 子供が遊べる広場(公園) 浜の植物の勉強会ができる場所 河津桜の植栽 起点側 防災緑地と道路盛土の法面を植栽し、一体とする 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場は必要では トイレ 海へ降りる階段が必要 住民による苗木の植栽のエリア 2号公園から防災緑地に降りるには? 	<ul style="list-style-type: none"> 起点側は、道路盛土が高いので、緑地に樹木はいらぬのでは

E班	防災緑地を見た感想	<ul style="list-style-type: none"> 大きい! 足場では大きさはわかるが、実感がわかない! 				
	どこで	誰が	何のために	何をする	そのために何が必要か	何がいらぬか
		<ul style="list-style-type: none"> 何を作ってもよいが、管理は考えてほしい。地域は人が減っているため難しい 市の方がやってほしい 住む人がいないので、地元が管理することが難しい 人口半減しているのが問題 	<ul style="list-style-type: none"> 災害の風化を防ぐため 	<ul style="list-style-type: none"> 復興公園の整備 ウォーキングコース 鯉川河川敷と岩間を結ぶウォーキングコース 	<ul style="list-style-type: none"> モニュメント 防犯カメラ 維持管理の仕組み 維持・管理の問題、運営者 桜並木 県道側へすみやかに避難できる場所・経路 避難路 	<ul style="list-style-type: none"> 人がたまるような場所にはしたくない トイレは以前も反対した

アドバイザーの感想



北郷先生

岩間の景観のデザインが皆さんの仕事。後世に伝える岩間の価値を引き出したい。ピエンナーレ(美術展覧会)を行うなど芸術公園のイメージもいい。防潮堤は残して後世に伝えていきたい。



元倉先生

自分が行きたくなる公園をエゴイスタックに考えてもいい。何々がある公園、何々をする公園という視点が必要。道路と堤防の傾斜で広い平坦地ができ、活用すべき。海が見える場所になる。



清水先生

防災緑地により地形が変わってしまうマイナス要素を逆にとり、面白いものにするのがワークショップの目的。複雑な地形ができ、色々な可能性が増えたと考えべき。



木田先生

樹木を使ってこんなことをしたいという意見が印象的。それに応えられるようにしたい。

